

令和7年2月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

2月は、寒波や大雪の影響で人の動きが鈍り売上が減少した業種が多く、また、売上が増加した業種にあっても、原材料・エネルギー価格の高騰や人件費の上昇に対し、価格転嫁が追い付かず収益の改善につながっていないことから、全体の景況感は低下した。

さらに、深刻な人手不足により受注・販売機会の喪失が生じ、収益力の足かせとなっており、人材確保が困難な状況の中で、今後の事業運営を懸念する報告が多く寄せられている。

山口県の主要指標 DI 値（令和7年2月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：3.8% 悪化：31.3% DI 値：▲27.5% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：11.3% 減少：40.0% DI 値：▲28.7% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：5.0% 悪化：41.3% DI 値：▲36.3% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和7年2月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲37.5	33.3	▲100.0	▲50.0	▲50.0	12.5	▲33.3	▲25.0
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製造業
▲20.0	▲42.9	▲33.3	▲9.1	▲36.4	▲28.6	▲100.0	▲29.2
							

全 体
▲27.5


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	寒波による雪の影響で菓子の動きが鈍化。バレンタインは前年に続き低調であった。特にカカオ製品の代表であるチョコレートが原価を押し上げている。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	水産加工原魚の水揚げ減少が続いている。原魚価格、資材価格、冷蔵庫等の電気料金の高騰と人手不足等による人件費の高騰が続く。また、漁業者の廃業、後継者不足が深刻である。すべては、人口の減少が影響している。	水産食料品製造業 長門市
	円安が少しずつ回復傾向だが、原材料や水道光熱費の高騰、人件費（最低賃金）の上がり幅が大きいため、商品の値上げが追い付かず、単価設定を見直さなくてはならない状況。2月になり少しずつ商品が動き出したが、食材やお土産等の商品を扱っている企業は、観光客が増えないと売上が増加しない模様。世間では、賃金が上がリ、収入が増えているかもしれないが、商品も値上がりしているため、消費者の買い物が必要最低限になっていると思われる。食べ歩きのできる飲食商品の売上の方がむしろ増加している模様である。	水産食料品製造業 下関市
	想像をはるかに超えた大雪に見舞われ、組合員の安全確保のため時短営業と臨時休業を即決した。道路凍結により車の運転が不可能だったため、早い決断をして正解だった。しかし、それによって例年に比べて稼働日数が少なくなり、更に、その後も気温の低い寒い日が続いたことと、野菜の出荷が少ないため購買意欲が低下したことで、市場の売上高も伸び悩んだ。また1件仕入先が倒産した。今後は仕入れ条件が悪くなり、値上げの波はまだまだ収束感が見えない。	食料品製造業
	2月の売上は全国的に慢性的な米不足が続き、農協の概算金が大幅に上昇したことによる売上高の増加が見込める状況となった。ただ、今までの肥料、農薬、燃料代などの上昇分を吸収できるくらいとなるため、利益率については変更が無い。例年に比べ、異常な高温の日が長く続いた影響でお米の等級については、昨年より低下することとなった。寒い日が続く麦の生育が遅れるなど、地球温暖化に伴う気候変動の影響を受けている。また、東北地方では大規模な山火事が発生するなど、その対策については、目に見えて進めているような政策がほとんどなく、水素ステーションの構築、燃料電池の積極的な導入、グリーンアンモニアの生産拡大など、ゼロカーボン型社会の実現に向けた政策の加速化が強く求められている。また、日本の発電量に占める化石燃料の利用率約 70%という数値も	精穀・製粉業

	<p>国際社会的にみても異常に高いので、早急に自然エネルギーの利用と原子力などによる発電に関するゼロカーボンの比率を 70%にさせるなどの改善が必要である。ロシアがウクライナに侵攻して3年が経過したが、新たに就任したアメリカのトランプ大統領が停戦にむけて、意欲をみせるなど、戦局について変更の兆しが現れている。中東情勢の悪化に伴う世界情勢が混沌として、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。国際的な原油価格が上昇し、それに伴って、肥料価格が前年比 160%アップという驚異的な結果となっている。政府の、原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、特にガソリン価格の対策費の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。おって、北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。</p>	
繊維工業	生産能力に合った受注をしている。取引先の海外輸出分は好調の様様。	外衣・シャツ製造業
	原材料の高騰による前倒し注文と年度末の繁忙期が重なるが、人材不足によって対応ができていない状態が続いている。	帆布製品製造業
木材・木製品	組合員の平均売上額は、令和6年2月と比べ20%の減少。	製材業・木製品製造業
印刷	年度末の受注増加で潤うところであるが、報告書等の受注が激減し、工場も月末のみがフル稼働となり売上も減少した。	印刷業 山口市
	日本経済は超低金利政策が終焉を迎え、金利の上昇や円高の進行が進む局面に入った。インフレの進行に賃金の引上げが追い付かず、実質賃金が低下している状況は、改善されていると感じられない。年度末が近づき、印刷業界は最も多忙な時期を迎える。今年度の受注状況はそれなりであるものの、収益の確保ができるかが大きな課題である。印刷関連原材料の高騰は依然続いており、市場規模の縮小に加えて、デジタル化によるペーパーレス社会の進行が印刷関連受注総額の減少を招いており、経営は非常に厳しい状況が続いていることに変わりはない。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	令和7年4月より、セメント価格が1トン当たり2,100円程度の値上げが各メーカーから発表されている。異形鉄筋の値上げについても耳にするようになり、運賃値上げも続き、先行き不安な状況が続くと感じている。	コンクリート製品製造業 柳井市
	令和7年4月より、10%の商品値上げを実施予定。	コンクリート製品製造業 防府市
	出荷量は、前月比84%、前年同月比95%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。一部の地区で値上げの動きがある。	生コンクリート製造業
	春節のため中国製品の入荷が遅れる傾向にある。新規の墓建立は国産石材での注文が多くな	石工品製造業

	っている。	
	ようやく閑散期も終わろうとしている。物価高騰を正面から受け、資金繰りに大苦戦した。陶土が採れず、土問題に苦戦している。土が変われば釉薬も変わり、ガス代・電気代も高騰している中、すべて試験を始めなくてはならず、困惑している。	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	年度末になり、全体的に前年度より駆け込みの注文等が増している。エネルギー転換、CO2削減装置等リニューアルが本格的に動き出し、少しずつ現場に影響が出てきたように感じる。	一般機械器具製造業 下松市
	業況は、年末に納期が集中した分、年始より案件が減少し、売上が大きく落ち込んだ。大口受注の納期が延長になったことも影響し、仕掛りの材料費や外注費が資金繰りを圧迫している。受注量は変わらず多く値上げを受け入れてもらっており、この先の見通しも良いが、納期調整をしている状況である。人手不足が続いているが、日本人外国人を問わず適性の合う応募者が少なく、仕事量が消化できない状況が続いている。現在は、中近東の石油プラントが活発に動いておりアメリカの原油等の掘削、ウクライナ戦争でのロシアの石油、ガスの動向を見守っている。	一般機械器具製造業 防府市
	各業種とも当面の事業量を確保しており順調であるが、全職種において人材の確保に苦慮している。特に、介護、建設、食品加工に加え自動車整備、自動車運転手の確保が喫緊の課題となっている。人材確保が出来ないことが事業運営に支障をきたしており、外国人人材への切り替えが進んでいる。しかしながら、外国人人材確保の面でも、低賃金、特に円安の影響は大きく、ベトナムでは高賃金の韓国への希望が高い。また、賃金は日本より低い、簡易な手続きで規制も緩く、長期に滞在できる台湾の人気も高くなっている。現在の状況で日本が選ばれ国であることは厳しく、今後は多数の若年人口を抱えるインドネシア、インドへシフトせざるを得ない。しかしながら、現状の賃金環境が継続するといずれは行き詰まる。従って、最低賃金の抜本的な見直しに早急に取り組み、諸外国に劣らないような高賃金体制にすることが急務であり、日本国内での賃金格差の解消にも早急に対処する必要がある。また、賃金対応のみならず多文化共生社会づくりへの対応による生活環境、文化環境、教育環境、日本語教育等の充実による日本の魅力づくりに取り組むとともに、今後増加することが懸念される犯罪対応等についてのトラブルに対する対応策を含め国民のコンセンサスをどう進めるかが求められる。なお、アメリカの進める関税政策が全世界に与える影響が日本経済にどのような影響があるか	一般機械器具製造業 宇部市

	慎重に見極める必要があり、それにより設備投資等が低調になることがあれば景気状況が大幅に悪化することが懸念される。	
	厳しい状況に変わりはないが、一部の組合員の中には少しずつ受注が増加し、回復の傾向が見られる。	
	育成就労の情報が、管理団体の業界で明確でなく困っている。SNSでの情報交換で、不安の声が上がっている。	一般機械器具製造業 下関市
輸送機器	鉄道車両関係は3月までの受注量はあるものの、この4月からは大幅な受注減の見通し。2025年度11月頃から多少の受注増加の見込みであるが、本格的な稼働は2026年度以降になる見通し。人件費や原材料費・電気料等の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予測よりも大幅に受注量が減少し低位に推移している。2025年3月に半導体新工場が完成予定だが、受注増加はずれ込む見通し。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	依然として海苔の入札は高値が続いており、入庫が大幅に減少している。倉庫売上に大きく影響するので3月以降好転するかが大きな関心事項である。	乾物卸売業
	県外からの入港もあり、下関漁港の水揚げ数量は前年を大幅に上回り、金額は前年を上回った模様だが、各種価格高騰で収益が思うように好転しない。業界全体の景況としては、悪化しているように思う。	生鮮・魚介卸売業
	物価の高騰で販売価格は上がったが、依然として収益が好転しない状況に変わりはない。賃金の値上げについても検討したいが、現状良い策は見つかっていない。	各種商品卸売業 防府市
	商品の値上げ前の在庫数量が増加している。	各種商品卸売業 山口市
小売業	売上状況は前年に比べて微増。特に2月は積雪等の天候の影響で外出の機会が減少したためと思われる。先月に続きクリームや美容液などの売上が好調。大手社長の分析では、化粧品市場の現況について、高価格帯と低価格の商品を使い分ける生活者が増えているが、これは経済的な理由に加え、消費の選択眼が厳しくなってきたことが要因との説明があった。専門店が高価格帯を取扱っているため、親身な接客やカウンセリング、気持ちの良い施術で「高い満足度」を提供しなければならないと考えられる。	化粧品小売業
	2月末に組合員が1名、後継者が無く廃業となるが、その空店舗には6月にテナントが入居予定である。	各種商品小売業 光市
	2月の売上は前年同月比40.9%減少と壊滅的状况。人手不足により月1日の店休日を設けたことにより営業日が1日減少したことも原因の一つだが、最大の要因は近隣の春の風物詩である河津桜の開花である。当施設の横にある公園の河津桜120本が、昨年2月20日に満開を	各種商品小売業 萩市

	<p>迎えて来場客も盛況であったが、本年は夏場の異常気象や直近の寒波の影響で、2月末現在でも全く開花していない状況で、前年比来場客は38.5%の大幅減となった。</p>	
	<p>2月の供給高は前年比108.1%、来店者数99.7%。引き続き青果の入荷が不安定である。お米の売上が前年比210.5%。仕入先は便乗値上げをしていないので、共同購入では昨年の6倍の注文があり在庫がなくなった模様。店舗でも安いお米は注文が出来なくなった。</p>	<p>各種商品小売業 下関市</p>
商店街	<p>2月に全国を覆った大型寒波により消費活動もやや萎縮したが、春に向けた期待感もあり大きな落ち込みにはならなかった。商店街周辺では新店舗の開業が相次ぐなど、新たな活気も生まれてきている。また、商業エリアに建設されたマンションも稼働を始め、新しい人口の流入や街のハードウェアの更新が進み、少しずつ上向きの空気が感じられるようになった。一方で、既存の古参店舗の廃業や撤退も目立ち、来街者、生活者とも新旧の入れ替わりが明確になっている。商店街組織を含む現在の諸団体構造や様々なルール、習慣は、高度経済成長の頃に端を發しており、昭和から平成、令和の現代において、この旧式の制度や環境は明らかに価値観や時間軸の進み方が適合しなくなっている。企業や団体の多くは行財政改革などに取り組むが、振興組合や自治会など、合議によって成り立つ街の組織は改革が成されず現在に至り、衰退の一途を辿ることとなるので、抜本的に打開する施策の必要性を痛感している。</p>	<p>岩国市</p>
	<p>周南夜市が駅前広場で開催され、小さい規模だったが賑わいをみせた。春になると来客も増えてくるので、イベントの企画など商店街が団結できるようになれば良いと思う。</p>	<p>周南市</p>
	<p>青果業に関して入荷量が全く増加せず、品物が不足しているので値段が下がらない。お米も入荷するとすぐに売り切れる状態。今月からお米も値上がりする模様。</p>	<p>山口市</p>
	<p>寒さが続き、人出も少ない。景気の悪化を身に染みて思う。</p>	<p>宇部市</p>
	<p>1月は悪天候の影響もあり来客数が減少したが、2月の中頃から徐々に戻った模様。3月の市長選挙で来客数が増えることに期待したい。</p>	<p>萩市</p>
	<p>大雪の影響により売上が激減した。週の半分は商店街の人通りが激減しており対策を講じないといけない状況である。</p>	<p>下関市</p>
サービス業	<p>2月の初旬は年間でも最も閑散期であり、今年も例年通りである。新型コロナウイルス感染症の脅威も完全に去り、卒業式の数制限等の制約もなくなって、大勢で式に行かれる家庭も増えたことで、中旬以降は身だしなみを整えに来店する方も多く、去年より売上がアップした店舗が増加した模様。</p>	<p>美容業</p>

	厳しい寒さと物価高騰により、自粛傾向にある。	理容業
	山口県の令和7年1月の新車新規登録台数は、登録車 2,987 台で対前年同月比 114.7%のプラス、軽自動車も 2,416 台で対前年同月比 115.9%プラスとなり全体で 115.2%となった。軽自動車は実に半年振りのプラスとなった。まだまだ回復と言えるには時間をかけ注視する必要があるが、期待をするところである。これから新年度に向けた年度末商戦が本格化するので販売動向等を見守りたい。先般、日整連（日本自動車整備振興会連合会）が「23 年度整備売上」は 18 年ぶりに 6 兆円を超えたと公表した。背景にはここ数年の部品不足や認証不正等の影響を受け、新車の供給が長期化し、車検や定期点検を受ける車輦が増え、車齢が延びたことによる部品交換の需要等が影響したと思われる。一方人材不足も顕著となっていることも課題の一つで、今後更なる分析も進むと思われるので動向を注視したい。	自動車整備業
	対前年比大きな変化はない。組合では年明けからの会員数減少をできるだけ抑え、年度末3月の下旬となるように各社取り組みを行っている。例年行っていなかった2月度入会促進キャンペーンを行い、入会者数増加の概ね良い反応である。3月も同様なキャンペーンを行うとともに、チラシ広告を SNS 広告などの媒体に一部変更し、反応を見ているところである。	スポーツ・健康教授業
	クリーニングの需要は、物価高の影響で厳しい状況が続き、また、原材料や水道光熱費の高止まりが収益を圧迫し、厳しい状況が続いている。DX化でいかに効率を上げるか、人件費を削るかの話も多く聞く。	普通洗濯業
	2月は来客数が減少する傾向にある。	飲食業
	売上は前年同月比 97.9%、宿泊人員前年同月比 89.4%と前年同月比を下回った。一般の県内の宿泊客数は前年同月比 90%、県外客数は 85.5%と大幅な減少となった。実業団ハーフマラソン及び大学センター試験周辺日において、ホテルの休館が一因と思われる。インバウンドにおいては前年同月比 172%と大きな伸びとなった。	旅館業 山口市
	2月は積雪等により客足が鈍り、売上高は 28%の減額となった。原油高により電気代等に影響、厳しい資金繰りとなった。入浴客は高齢者が多いため、季節や運転免許返納等が温泉事業に影響すると思われる。	旅館業 長門市
	下関の「ふく」を求めての観光客が、年々戻りつつある。	旅館業 下関市
建設業	中電への工事申請 111 件(当支部 99 件)、前年同月 142 件(同 124 件)。太陽光発電への申請 28 件(前年 32 件)、オール電化申請 47 件(前年 68 件)。LED 街路灯への切り替え・新設申	電気工事

	請 20 件(前年 6 件)であった。	
	1990 年から 2020 年迄の 30 年間に左官工事業の従事者が 7 割減少した。減少した中でも左官技能者が余る時期が発生している。業界の縮小は一段と進むと予測される。	左官工事業
	令和 6 年度の官公需が 2 月末納期であったので、組合員は皆忙しかった模様。民間工事については、人手不足もあり、年度を跨ぐ可能性がある。道路陥没事故の報道を受けて、当市でも水道の調査がされている模様で、令和 7 年度のメンテナンスの案件に期待をしている。	管工事業
	例年年明けは、仕事の確保に最も苦勞する時期。年度末を控え、引き渡しの物件が多いため、新築物件の着工は 4 月以降となる。寒い時期は天候不順でもあり、既設住宅の葺き替え需要も落ち込みがちである。	瓦工事業
	小規模工事や現場加工物件で忙しいと話す組合員がいる一方で、同業他社の応援製作のみで仕事量が極めて薄かったと話す組合員もおり、仕事量に差が生じている模様。見積物件数が少なく 4 月以降も厳しい状況が続く見込み。また、見積に諸物価高騰分をどこまで転嫁できるかが重要だが、見積に反映するとあっさり失注する恐れもあり、難しい。	鉄骨・鉄筋工事業
	土木建設業は年度末を迎え、年度内完工のため忙しい時期を迎えている。本組合は県事業の内、土木事務所の受注高に対して、負担を組合に納入することになっているが、令和 6 年度の受注高は 5 年度の 80%であり、組合の収入は減額となる見通しである。当管内公共事業が減少している。	一般土木工事業 柳井市
	2 月の受注高は、対前年同月比 55.4%。今年度の累計は。対前年比 117.8%。	一般土木工事業 萩市
	2 月末の長門地区の公共事業発注高は例年の 7 割強であり、今年度の発注高は例年の 8 割を回復できないまま終了しそうである。	一般土木工事業 長門市
運輸業	2 月もまだ荷動きが悪く、売上も思うように伸びない。燃料の高値が続いており、運送業界の苦しい状況は変わらない。	一般貨物自動車運送業 下松市
	荷動きに目立った増減はない。倉庫保管案件が減少傾向であるが、最近、県内近辺に営業倉庫が多く建設されている影響と考えられる。雇用人員に関しては入退社が多く、なかなか安定しない。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+1.9%（令和7年1月1日～令和7年2月20日分、今期24,499千円、前期24,046千円）だった。1月1日～1月31日分は、+1.8%（今期15,438千円、前期15,159千円）。2月1日～2月20日分は、+1.9%（今期9,060千円、前期8,887千円）。令和6年12月分は前年比で減少したが、1月から前年と同額になってきた。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。1月分については、周南+2.8%、下松+10.2%、光▲16.5%、防府市地区が+9.6%で、組合員の全域では+3.6%、地区外（員外）▲13.3%、合計+1.8%（+279千円）だった。当組合業務用車両をガソリン車に代替えたため、オートガスの価格が分からなくなったが、ガソリン価格と同様、高値が継続している模様。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって、慢性的危機的に不足している。個人タクシーも高齢での廃業が進み、後継者が出ないので減る一方である。12月分は減少となったが、1月から前年並みに回復してきているように思われる。2月は日数が一日少ないので月間合計は厳しいが、ほぼ前年並みの金額になると期待している。乗務員の人件費が歩合給であっても、総額収入金額が増加しない一方で、会社の運営経費は増加し続けているため、タクシー事業者の多くが赤字経営となっているようで、過去に積み上げた資産を、取り崩しながら、ようやく運営しているといった状況の模様。事業継承を受ける所が見つからず、廃業するケースが危惧される。</p>	<p>一般乗用旅客 自動車運送業</p>
	<p>大きな変化はなく推移している。</p>	<p>港湾運送業</p>
<p>その他</p>	<p>医療・介護業界では、原材料・エネルギー価格の高騰や人件費の上昇を転嫁しきれず、収益が改善していない事業所が多い。また、最低賃金の変更により、人件費も上がっている。多くの事業所で、深刻な人手不足への対応に苦慮している。人手不足により利用者の受け入れが困難となり、収益力の足かせとなっている。人材確保が困難な状況の中で、今後の事業運営を懸念する報告が多く寄せられている。</p>	<p>介護事業</p>